

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成29年第Ⅱ四半期（4～6月）

設備投資：4期連続で緩やかに回復

採算状況：プラス水準に改善

資金繰り：わずかに改善

雇用人員：2期連続で「不足」感が弱まる

## 《 概要 》

### □設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成29年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は19.6%となった。前期の18.7%から0.9ポイント増加し、4期連続で緩やかに回復している。

来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は19.3%とわずかに減少する見通しとなっている。

### □採算状況

当期の採算状況を採算D I（「黒字」－「赤字」）で見ると、0.2（前期▲1.8）と2.0ポイント上昇し、プラス水準に改善した。

### □資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りD I（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲16.1（前期▲17.0）と0.9ポイント上昇し、わずかに改善した。

### □雇用人員

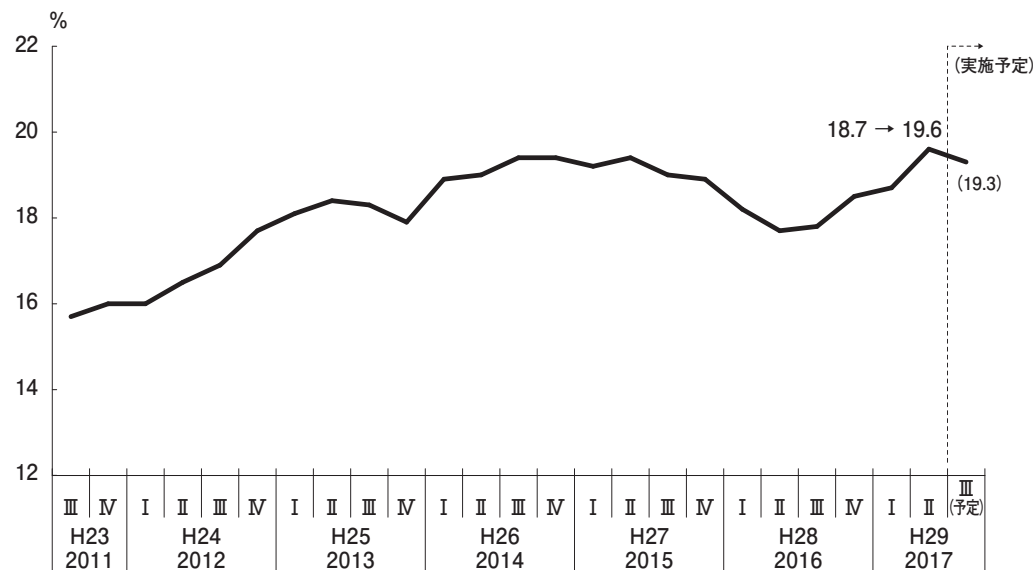
当期の雇用状況を雇用人員D I（「不足」－「過剰」）で見ると、15.9（前期16.6）と0.7ポイントとわずかに低下し、2期連続で「不足」感を弱めた。

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成29年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は19.6%となった。前期（平成29年1～3月）の18.7%から0.9ポイント増加し、4期連続で緩やかに回復している。

来期（平成29年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は19.3%とわずかに減少する見通しとなっている。

図表1 設備投資の実施割合（全体）－後方4四半期移動平均－

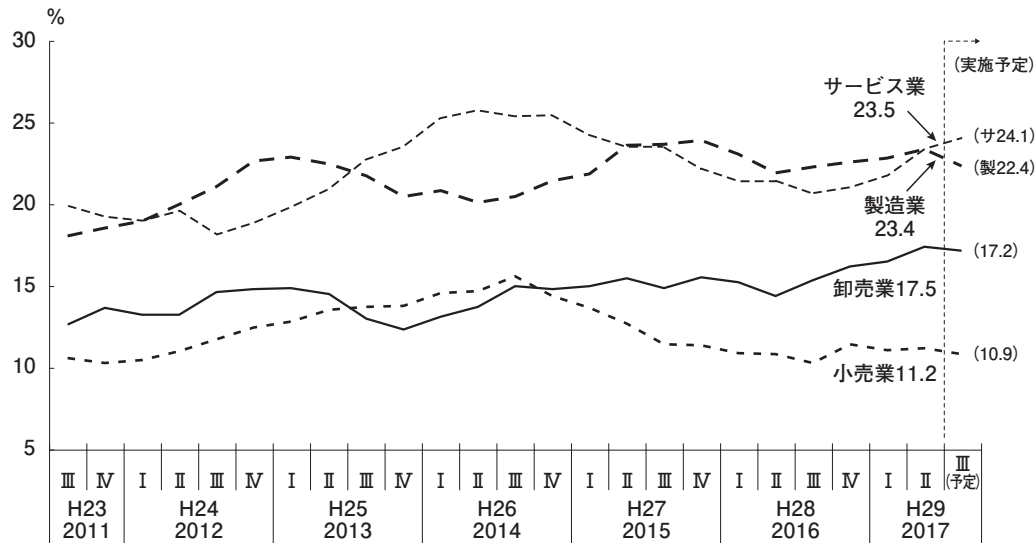


注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は、製造業は23.4%（前期22.9%）、卸売業は17.5%（同16.5%）、小売業は11.2%（同11.1%）、サービス業は23.5%（同21.8%）と全業種で増加した。製造業と卸売業はともに4期連続で増加し、回復傾向が続いている。

来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、サービス業のみ24.1%と増加が見込まれている。他の業種はいずれも減少する見通しで、なかでも製造業は22.4%とやや大きな減少が見込まれている。

図表2 設備投資の実施割合（業種別）－後方4四半期移動平均－

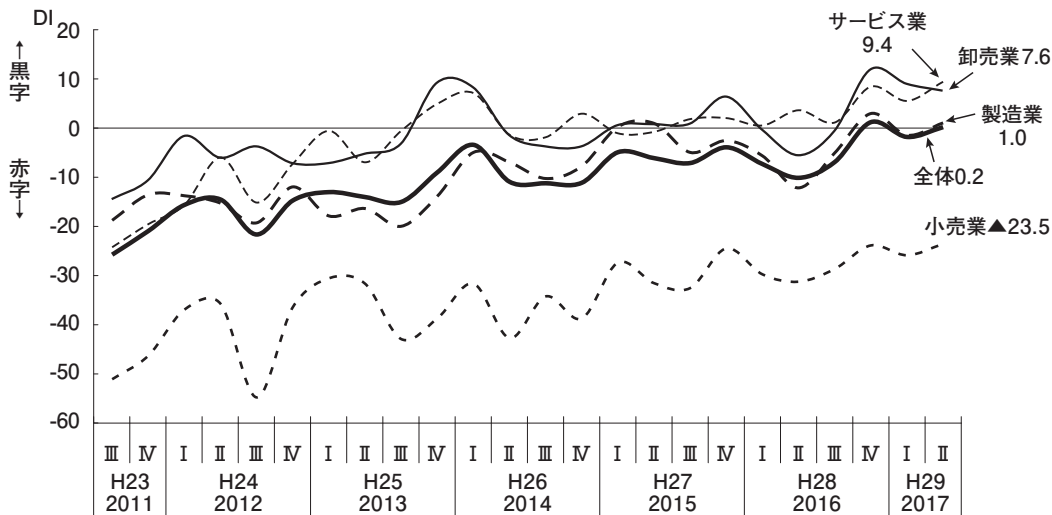


注) 来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

### ■採算状況■

当期の採算状況を採算D I（「黒字」－「赤字」）で見ると、0.2（前期▲1.8）と2.0ポイント上昇し、プラス水準に改善した。

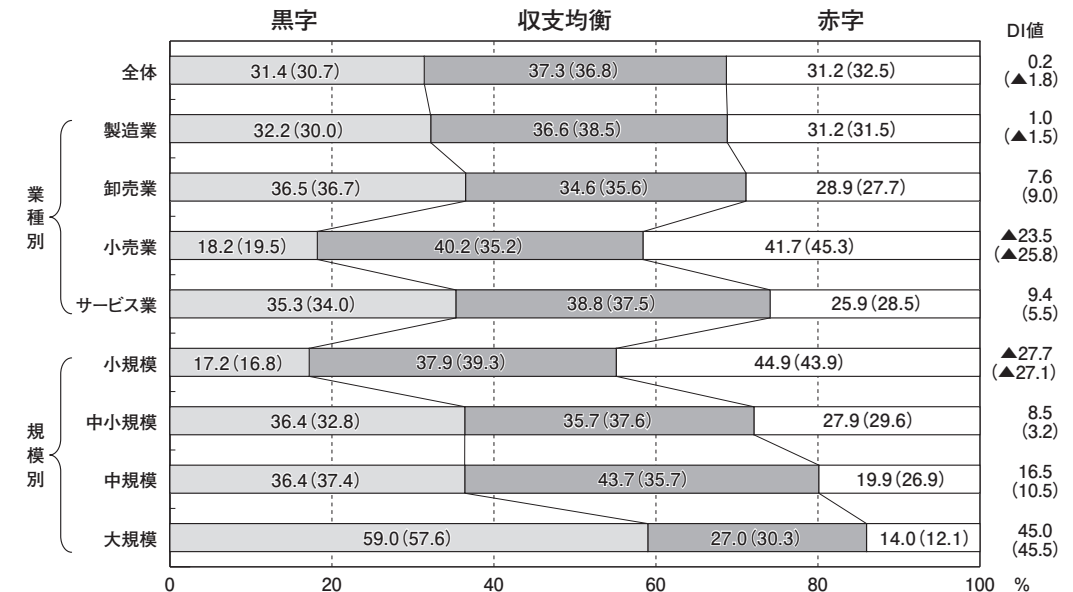
図表3 採算D Iの推移



業種別にみると、製造業1.0（前期▲1.5）は2.5ポイント、小売業▲23.5（同▲25.8）は2.3ポイント、サービス業9.4（同5.5）は3.9ポイント上昇し、前期の悪化から持ち直した。一方、卸売業7.6（同9.0）のみ▲1.4ポイントと2期連続で悪化した。

規模別にみると、中規模16.5（同10.5）は6.0ポイント、中小規模8.5（同3.2）は5.3ポイントとともに大幅に改善した。一方、大規模45.0（同45.5）と小規模▲27.7（同▲27.1）はほぼ横ばいとなった。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



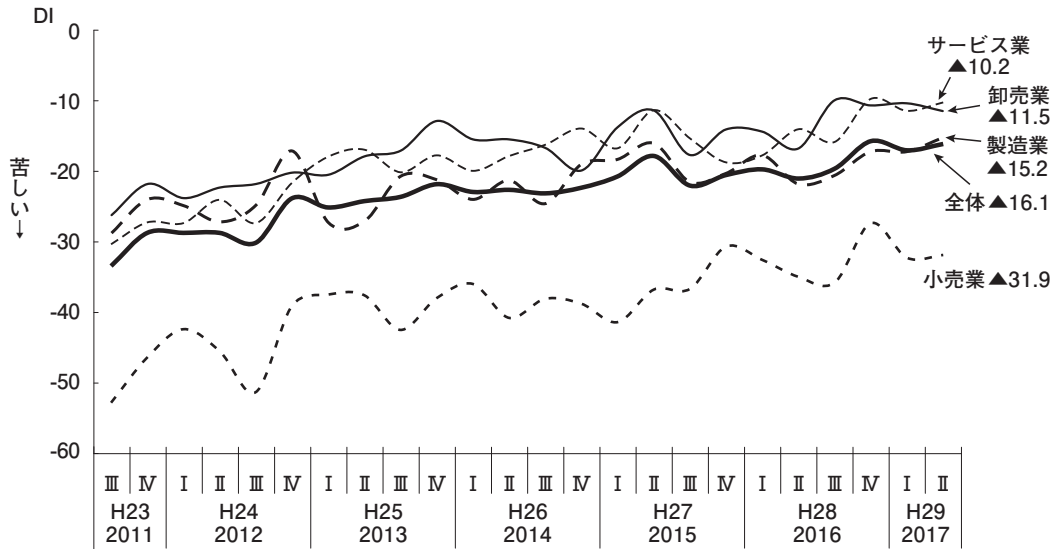
注) カッコ内は前期（平成29年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

### ■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りD I（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲16.1（前期▲17.0）と0.9ポイント上昇し、わずかに改善した。

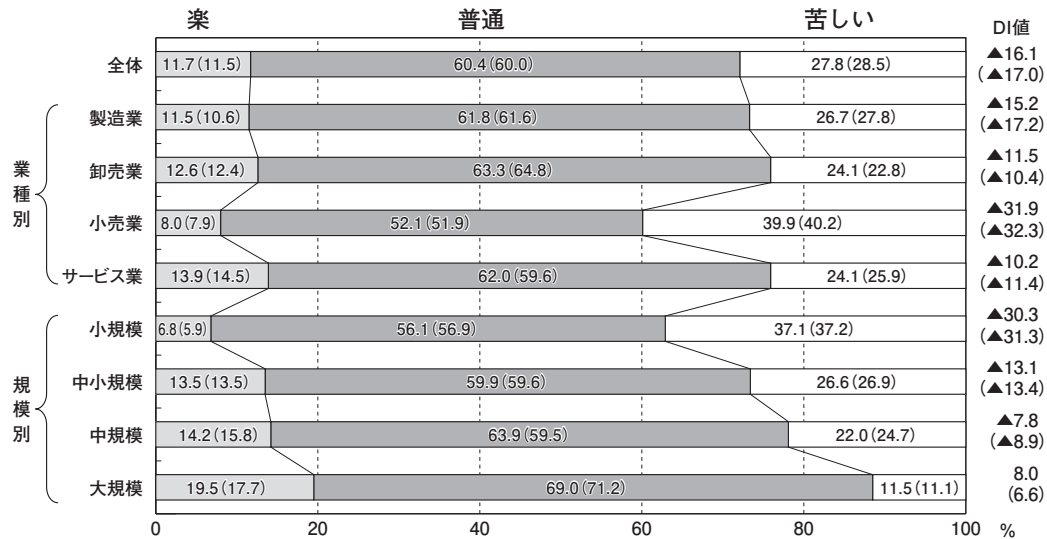
業種別にみると、製造業▲15.2（同▲17.2）は2.0ポイント、サービス業▲10.2（同▲11.4）は1.2ポイント上昇したほか、小売業▲31.9（同▲32.3）は0.4ポイントとほぼ横ばいとなった。一方、卸売業▲11.5（同▲10.4）のみ1.1ポイントとやや低下した。

図表5 資金繰りD Iの推移



規模別にみると、全規模で資金繰りD Iが改善した。特に大規模8.0（前期6.6）は1.4ポイント上昇し、4期連続で改善、7期連続でD I値がプラスとなっている。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

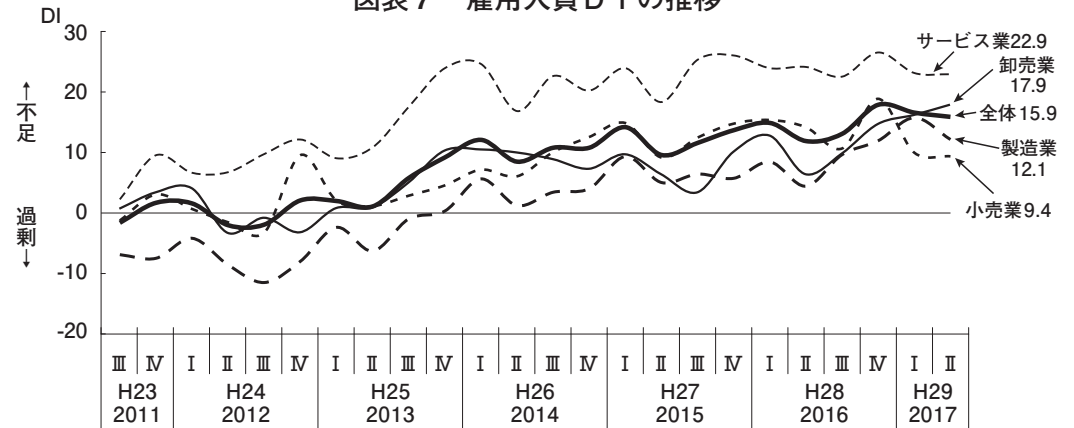


注) カッコ内は前期（平成29年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員D I（「不足」－「過剰」）でみると、15.9（前期16.6）と0.7ポイントとわずかに低下し、2期連続で「不足」感を弱めた。

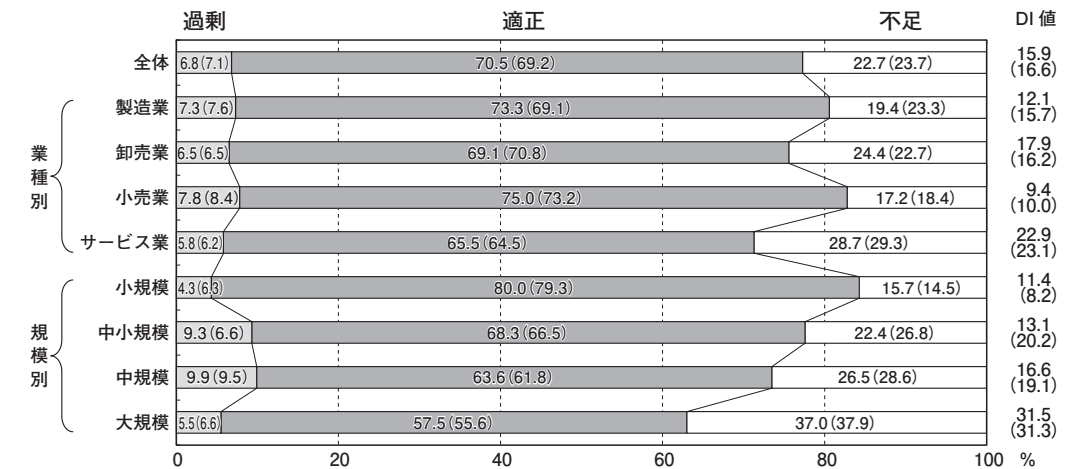
図表7 雇用人員D Iの推移



業種別にみると、卸売業17.9（前期16.2）は1.7ポイントと4期連続で上昇した。一方、製造業12.1（同15.7）は3.6ポイントと4期ぶりにやや低下した。

規模別にみると、小規模11.4（同8.2）は3.2ポイントとやや上昇した。一方、中小規模13.1（同20.2）は7.1ポイントと大幅に低下し、「不足」感を弱めた。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) カッコ内は前期（平成29年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。